



都市史

- 17N1023 柏木航
- 17N1018 岡本拓也
- 17N1016 大村昂太
- 17N1045 齋藤大輔

調査敷地 : 神田神保町周辺

- 仮定 :
- ・喫茶店、古本屋さんが多い理由は大学が昔から多いことに関係あるのではないか。
 - ・大学が多いのは、武家屋敷などの広い土地が由来かもしれない。

調査対象 : 大名屋敷、大学を色分けし実測する





1779年ごろ

江戸城が近い
ため大名屋敷が多い



1876年

明治10年ごろあたりから
大学がいくつかでき始める。

明治13年 東京法科大学

明治18年 専修大学

市電が靖国通りに
開通する

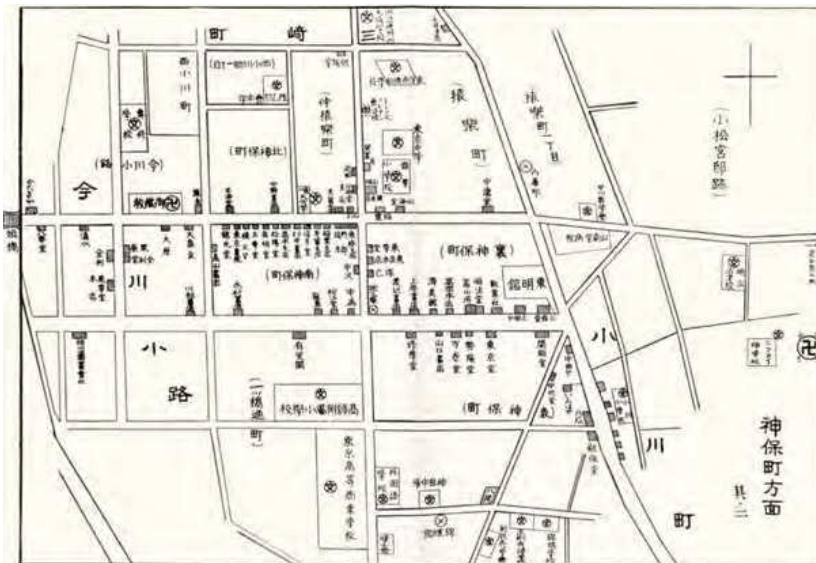
● 大名屋敷、公家の屋敷

● 町家などの住居



- 住居など
- 大学

関東大震災が原因と見られる大幅な街区の改正が確認できる。
靖国通りは東西方向に改変されている



・本の劣化を防ぐために古本屋のほとんどは北口に面している



～1987年



現在

大学が外堀の北側にも多くできてくる。
都電がなくなり地下鉄に
大学のキャンパスの分棟化などにより
街区は細くなる

- 住居など
- 大学

大きな流れは

霞ヶ関など国の主要期間が集うエリアに近いので教授などの通勤の時間距離が短くて済む
屋敷などの広い土地が多かったので敷地の確保が比較的容易だった。



大学ができる
教養階級の人たちが集まる。



学生や教授が利用できる
古本屋が多く出現する。

